

職員のみなさんへ一言メッセージ（第88回）

今朝は日曜日のためか、道路は空いており、スイスイと走れ、朝礼前から、この一言メッセージを書き始めました。また、今日（21日）は、参議院議員の選挙の投票日です。国の財政は倒産寸前、外交・防衛は危機的な状況にある日本の行方を左右する選挙となると思います。

さて、私ども真和館でも7月1日から、居宅生活訓練事業が始まりました。7年間内部充実に取り組み、やっと、外に出る第一歩を踏み出しました。

何としても成功させねばなりません。みなさんの格段のご協力をお願いいたします。7月に入るとアパートの掃除、家具や電化製品を入れ、生活用品の購入などが整い、早速、15日からは、お二人にアパートで泊まっています。職員のみなさんには、送り迎え、非常時の対応など、新たな負担がかかっていますが、どうか、よろしく願い申し上げます。

お二人もアパートでの生活が始まり喜んでおられるようですが、良い環境になったためか、次々と要求が出て来ており、担当の高尾さんを困らせているようです。これも、本人たちの意欲の表れと前向きに捉え、対処をして行きたいと思っています。

アルコール依存症の方を外に出すことは、なかなか、大変だとは思いますが、真和館がこれまで培って来たアルコール依存症者に対する支援の質や力量が問われることとなります。専任の高尾さんと2人の担当者を中心に、施設を挙げ、頑張っていきたいと思っています。

さて、昨夜テレビを見ていますと、作家（平野啓一郎）とアルピニスト（野口 健）の対談が有っており、その中で、仕事には「好きな仕事」、「できる仕事」、「すべき仕事」があるという話を作家の方がされていました。

人は、仕事を通してしか、自分を生かすことはできません。しかし、現代社会は、会社や団体などの組織に所属していなければ、仕事をすることはできません。私どもは、①情熱を持って取り組める仕事は何か。②自分の得意分野は何か。③組織に貢献する取り組みは何か。を常に考えねばなりません。少なくとも、この分野だけは、誰にも負けないという熱意を持った取り組みをしてください。また、施設という組織に貢献する働き方を考えた場合、以下の3項目を常に頭に入れて、仕事に取り組んでください。

- ① 決められたことを真摯にやり遂げ、正しく継続できる職員
- ② 細やかでやさしい心配りができる、些事に強い職員
- ③ 創意と工夫による入所者サービスの創造ができる職員

真和館の仕事は、多種多様であり、しかもチームで取り組んでいます。組織に貢献したいという気持ちで、真摯に取り組んでいけばきっと、道は開けます。

平成25年7月26日 真和館施設長 藤本和彦